

【ご参考資料】

2014年9月5日

9月4日発表のECB(欧州中央銀行)の利下げについて

主要政策金利を0.15%から0.05%に引き下げ

2014年9月4日、ECB(欧州中央銀行)は定例理事会において、主要政策金利を0.1%引き下げ、過去最低の年率0.05%とすることを決定しました。実質的な市場金利の上限となる限界貸出金利と民間銀行が中銀に預け入れる余剰資金(超過準備)の金利も0.1%ずつ引き下げ、それぞれ0.3%、-0.2%としました。

8月の講演で、ドラギ総裁はユーロ圏の期待インフレ率の低下に懸念を示し、「政策スタンスをさらに調整する用意はできている」と発言しました。市場では、何らかの追加緩和策が打ち出されるとの期待があったものの、金利については大半が据え置きを予想していました。

ABS(資産担保証券)とカバードボンドの購入を発表

ECBは利下げに加え、銀行の貸出債権を証券化したABSと貸出債権を担保とするカバードボンドの購入を10月から開始すると発表しました。

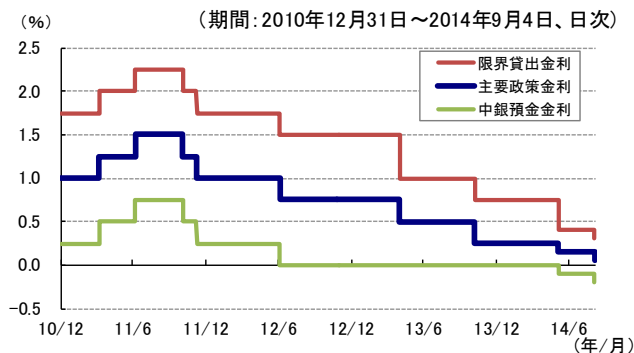
ECBが追加緩和を決定した背景には、ユーロ圏の景気停滞やデフレのリスクが高まっていることがあります。4-6月期のユーロ圏GDP(域内総生産、速報値)は前四半期比で横ばいとなったほか、8月のインフレ率(速報値)は0.3%と前月から低下しました。こうした状況を背景に、ドラギ総裁は記者会見で低インフレ長期化のリスクに対処するために必要であれば、「さらなる非伝統的政策を用いる決意がある」と強調し、国債購入を柱とする本格的な量的緩和の可能性も示唆しました。

9月4日のニューヨーク外国為替市場では、対円で前日比1.1%程度、対米ドルで同1.6%程度のユーロ安となりました。

次回のECB金融政策発表は2014年10月2日に予定されています。

以上

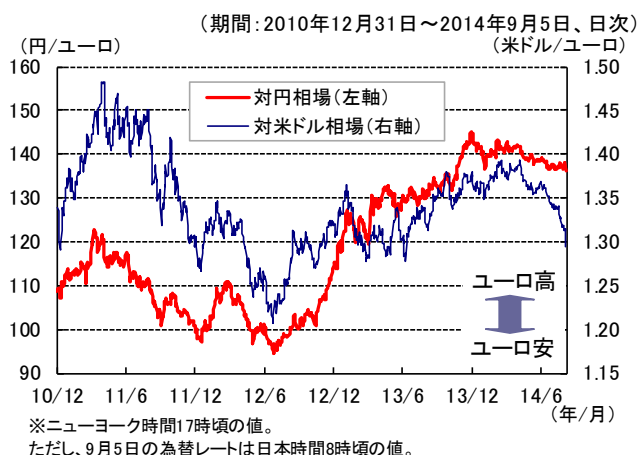
【図1】ECB政策金利の推移



【図2】ユーロ圏の消費者物価指数(前年同月比)の推移



【図3】ユーロの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成